

働けど家が遠く

兵庫土地物語

〈6〉

兵庫と岡山の県境にある日 密集地であり、緑が少なく、 名倉山(標高一〇四七竈) はうすうすと雪化粧していた。 今年九日朝、中国山地の 過疎の町、安栗郡千種町岩野 辺(いわのべ)の森脇地区。 寒気を破って、「カーン、カ ーン」とごち金属音が響いて きた。

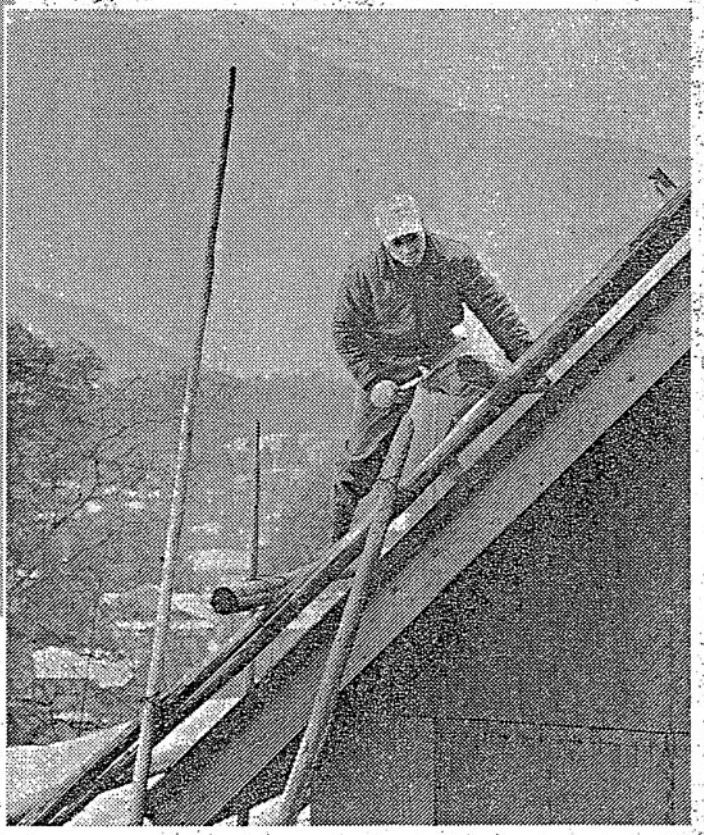
春には待望の入居 金つちを手伝、まぎろひかな マイホーム作りに汗を流す今 井和男さん(三〇)。黒のジャン パーに作業スボン、地下足袋 姿。赤いとりがり屋根の家は 六割まで完成した。今春、入 居する。

明石市出身。慶応大学経済 学部卒。幼年時代は明石市内 の田園地帯にあった父の会社 の杜宅で過ごした。水ぬるむ こつ、オタマジャクシをすく って育て、カエルになる様子 を観察した。稲刈りのすんだ 田んぼで野球をした。 大学生時代から環境問題、 自然食品などに関心を持ち、 卒業後は大阪市内の中学校で 社会の先生に。六年前、同じ 学校で英語の先生をしていた ひさ代さん(三〇)と結婚。長女 (三)、次女(二)が生まれた。

田舎暮らし

手作りマイホーム

み 悩 像 師 教 脱 都 会 決 意



三層屋根(たじ)作り、マイホーム作りに汗を流す今井和男さん。この地区に新しい家が 建つのは二十数年ぶりのことだ

中国山 地の山 において、三十戸 足らずの小さな 集落がある。標 高三〇〇竈の朝 来郡和田山町朝 日地区。西宮、 尼崎、富田林、 加古川市などが らちてきた五 世帯が廃屋に住 んで農業を営ん でいる。その一 人、大森昌也さ ん(四七)方には 「都会では子供 を育てたくな い」と、「脱都 会」の相談の手 紙が絶えない。 一年間に二、三 十通。そこには、 次のような

い悩んでいた。中、高校時代 は制服も校則も嫌いな生徒だ ったのに、教師になったら教 えてはほしい「校則を守れ」 という「自分が教師 にはむいていない」と思っ た。

昭和六十三年三月に退職。 農業を志し、大阪・藤井寺市 の農家で有機農業の作業を手 伝った。和歌山県の山村に移 住した人を訪ねた。

二フトリが自由に歩き回る 「自然養鶏」をやりたいと思 い、県下で「自然養鶏」に取 り組む十五人に片づけしから 「土地や家はないか」と手紙

を書いた。 千種町で有機農業を営んで いる森脇信行さん(四〇)から のアルバイトに従事。新築の 用は約五百万円。半額は父親 (六〇)から借りた。

「狭いアパートで子どもを 育てるのに限界を感じ、廃屋 を買ったための貯蓄を始めま した。」(大阪府、主婦)

「都会では子供 を育てたくな い」と、「脱都 会」の相談の手 紙が絶えない。 一年間に二、三 十通。そこには、 次のような

自然を相手の農業には思わぬ 苦労のあることも知った。 和男さんは引越後間も なく通に四日、土木建設作業 でのアルバイトに従事。新築の 用は約五百万円。半額は父親 (六〇)から借りた。

町へ。夫の死で広い田畑を 耕せなくなった五十歳過ぎの おぼさんが、約三十坪の田畑 を無料で貸してくれた。荒れ た畑に夫婦でクワを入れ、ナ ス、キュウリ、キャベツ、タ ンポコをつくった。インジ ングを設計した。土間は六畳。一 階に十畳のタイニングキッ ング、十八畳の吹き抜けの居 室、リビング、キッチン、バ ンナ、一階の屋根裏部屋合

本で学び洋風設計 住宅の造り方を書いた本を も手伝ってくれた。 自然の中のひび

間。屋根裏部屋は二十畳ある。 宅地も借地で、約四百平方 呎の畑。去年九月、神主を呼 び、地鎮祭をした。建設の費 用は約五百万円。半額は父親 (六〇)から借りた。

「高」の家賃を払うために働 くの疲れした(神戸市、保 育士) 高(危嶋市、会社員)

「狭いアパートで子どもを 育てるのに限界を感じ、廃屋 を買ったための貯蓄を始めま した。」(大阪府、主婦)

